



5



4



1



3



2

1市内の伝統行事をデザインした手ぬぐい。温かみを感じさせる小野さんの作風は、伝統的なものとの相性がよいです。2地域活性化にも熱心に取り組み、商工会のプロジェクトにもデザイン面で深く関わっています。3地域の学校でデザインの指導をする小野さん。小野さんは、子どもたちにデザインの楽しさを伝えることも大事な役目だと感じています。

僕の作品は「型染め」という染色技法を用います。白い布などにのりと米ぬかを混ぜた型を乗せ、その上から色を塗ると、型の部分は染まらないので模様が出てきます。現代的なデザインの模様にも染めることもできますが、それはしません。自分独自の模様を大切にしたいからです。僕の模様は、伝統的なものとか、地域特有のものを表現するのに向いていると思います。だから、

国見町で染色業とデザイン業を営んでいます。実家からの独立に合わせて移住先を探る中で、「ここを制作の拠点にしよう」と思ったのが国見町でした。実家の広島から近いこと、市の移住担当の方の対応が丁寧だったこと、そして、さまざまな分野の作家が多く住んでいたことが決め手です。周囲に作家がたくさんいるので、相談に乗ってもらったり、一緒に面白いことを企画したり、何かと心強いんですね。国見町は、創作活動に最適な環境だと思います。



ここでの暮らしに心地よさを感じるのかもしれない。国東半島には伝統的な文化がたくさん残っていますから。国見町に来てからは染布に加えてデザインの仕事も多くなってきたので、「よつめデザイン」を立ち上げました。ありがたいことに、商品の包装などを僕にデザインしてほしいと依頼が来るんです。世の中にいろんなデザインがある中で、僕の作風を気に入って依頼してくれるわけですから、その期待に応えたい。依頼者の話をよく聞いて、商品

の特徴や背景が消費者にわかりやすく伝わるデザインを心掛けています。これからは、デザインの仕事の比率がより増えてくると感じています。そこで、少し前から経営の勉強もしています。商品の売上を伸ばすには、デザイン以外の要素も必要なので、事業そのものについても助言ができるようになりたいですね。広い視野を持ち、得意とするデザインの力を生かして、課題解決のためのアイデアを提案していきたいと思っています。



よつめ染布舎・よつめデザイン

小野 豊一 さん (国見町伊美)

1982年生まれ、広島県出身。2015年に家族で国見町に移住。専門学校でグラフィックデザインを学び、実家の染物屋を経て、「よつめ染布舎」を立ち上げ独立しました。デザインに関する知識を生かして、デザイン業の「よつめデザイン」も展開しています。

伝統的な文化が残り、作家が多く住む国見町は
創作活動に最適な環境

広い視野を持ち、得意とするデザインの力を生かして
課題解決のためのアイデアを提案していきたい